

社会教育主事専門講座

令和4年11月10日（木曜日）～ 15日（火曜日）参加数：30名

主催：文部科学省 国立教育政策研究所社会教育実践研究センター

実施方法：ライブ配信11月10日・11日、対面11月14日・15日

社会教育主事として必要な高度かつ専門的な知識・技術に関する研修を行い、都道府県・指定都市の指導的立場にある社会教育主事としての力量を高めることをねらいとして実施した。

テーマ「あらゆる人々の活躍の推進に向けて」

行政説明 「今日における社会教育行政の現状」

文部科学省総合教育政策局地域学習推進課社会教育人材係 係長 福田 健太郎
第11期中央教育審議会生涯学習分科会における議論の整理の内容を基に、生涯学習・社会教育施策の現状を踏まえつつ、本講座のテーマに係る社会教育主事に期待される役割等について説明があった。



受講者の声

- ・近年の社会教育の在り方やウェルビーイングの実現、デジタル社会への対応、障害者の生涯学習等、今後の業務へのヒントが多かった。
- ・より大きな国や世界の考え方、提言、アウトラインについて知ることで、担当している業務の遂行や説明がしやすくなった。

講義 「社会教育における人権～アンコンシャスバイアスの視点から～」

独立行政法人国立女性教育会館 理事長 萩原 なつ子
事業課専門職 引間 紀江

萩原講師から、人権・ジェンダー平等に関する基礎的な定義や視点について、統計・条約・法律、SDGsの観点等を基にした説明があった。また、引間講師からは、男女共同参画と社会教育について、包摂的な視点やデジタルデバイドの観点から説明があった。まとめとして、アンコンシャスバイアスを解消するために、社会教育主事は重要な役割を担っているとの話があった。



受講者の声

- ・性別によるアンコンシャス・バイアスについては、まず気がつくことの重要性を強く感じた。
- ・男女共同参画の視点でブレのない企画運営をまずは自分がしっかりと実現していくことが大切だと感じた。

基調講義 「SDGsの理念と社会教育」

千葉商科大学 教授 笹谷 秀光

SDGsの成り立ちから、最新の世界の動向について、日本における浸透度合いを踏まえながら説明があった。その後、社会教育・生涯学習の現場において、社会教育主事は、世界の動向とSDGsの進展について理解しつつ、企業等の多様な主体と連携し、地域のためひいては日本のために持続可能な社会づくりを目指してほしいとの話があった。



受講者の声

- ・事業を実施するにあたり、何を目標とした取り組みをしていくか迷った際の拠り所としてSDGsは非常に有益であることがわかった。
- ・SDGsについて17の目標のみについて漠然と考えていたが、その中のターゲットを詳しく説明いただいたので、理解が深まった。

講義・事例研究 「障害者の生涯学習の推進」

神戸大学大学院 教授 津田 英二

兵庫県教育委員会事務局社会教育課 主任指導主事兼社会教育班長 小池 宏尚

小池班長から、兵庫県教育委員会における「障害者の学びを支援するための地域連携コンソーシアム構築事業」の取組についての事例発表があった。また、津田講師から、共生やインクルージョンといった用語と概念や、障害者の生涯学習推進政策の基本的な考え方について説明があった。



受講者の声

- ・障害者の生涯学習という概念が、なぜ近年叫ばれるようになってきたのか、疑問を感じていたため、その部分について丁寧に教えていただいたのが良かった。
- ・障害者の生涯学習を取り巻く背景や現状を丁寧に教えていただくことができた。「なぜ学ぶのに時間がかかる人が、いちばん短い期間しか学ぶ機会が与えられないのか」という言葉が印象的だった。

講義・演習 「客観的証拠に基づく教育指標とその活用方法」

北海道科学大学 講師 郡谷 寿英

EBPMの考え方が求められている背景を整理するとともに、データの種類や統計的手法、収集したデータをエビデンスとするための要件など、エビデンスを生成するための考え方について説明があった。また、本講座のテーマである「社会的包摂」に関するデータを活用した演習を通して、データ分析の流れを確認した。



受講者の声

- ・施設の主催事業で参加者からアンケートをとっているが、それを分析しどのように使っていくかという視点を持つことができた。
- ・実際に表計算ソフトを用いた演習をしていただいたので、今後自分の担当している事業のアンケート作成へのヒントになった。

シンポジウム 「社会的包摂の実現に向けた社会教育主事の果たす役割」

(コーディネーター) 文教大学 准教授 青山 鉄兵

(シンポジスト) 埼玉県教育局生涯学習推進課 社会教育主事兼指導主事 岡田 直人
(シンポジスト) 山口県教育庁地域連携教育推進課 主幹 水野 直樹

岡田主事から埼玉県における「外国人親子の支援と地域住民とのつながりづくりモデル事業」の事例発表があった。続いて、水野主幹から、山口県における「やまぐち型家庭教育支援チーム」の事例発表があった。後半は、青山講師の進行で「社会的包摂」の実現に向けて、①県内での普及啓発の方法、②人材確保について、③他部局との棲み分けの3つの論点で、受講者も交えながらディスカッションを行った。



受講者の声

- ・モデル市町やモデル校を指定して、その地域のニーズに合った事業展開を進めていく手法は、県が担う役割のあり方や新たな施策展開の進め方の参考となった。
- ・既存の仕組みを生かす視点を持ち、支援が届きにくい方に向けてのアプローチの取組が大変参考になった。

演習Ⅰ 「障害者との学び」

NPO法人障がい児・者の学びを保証する会 代表理事 大森 梓
i-LDK実行委員の皆様

大森講師から「知的障害のあるといわれる人たちが背負わされている現状について、データを基に説明があった。また、「健常者といわれる人たちがより学校教育の期間が短く、先に社会に出るのはなぜなのか」という問題提起が受講者になされ、会場にお招きした当事者の方に、その問題提起等について、インタビュー形式で話をいただいた。後半は、i-LDK実行委員の8名の方を講師に、「やりたいこと部活動」と称した活動(当事者の方々と受講者が共に学び合う演習)を行った。



受講者の声

- ・障害があると言われる方も一緒に講義を受け、障害者の学びに対して生の声を聞くことができました。
- ・「障害者として学ぶのではなく、地域の一員として学ぶ」という視点がとても大事だと思った。
- ・包摂的な事業を実施していく上でも、当事者とながら構築し、当事者の「ものさし」を理解した上で、考えていくことが重要であると再確認することができた。

演習Ⅱ 「社会包摂的視点を取り入れた社会教育施策の立案

～多様なニーズに応える視点を取り入れた施策立案～

宮城県教育庁生涯学習課生涯学習振興班 課長補佐 鎌田 光伸
栃木県教育委員会事務局生涯学習課 主幹 吉田 正道
群馬県教育委員会西部教育事務所 次長 山田 康成

受講者の所属自治体で実施している現行の施策に、「障害者の生涯学習」の視点を取り入れた新たな施策を立案し、演習講師の指導のもと、企画概要書を作成した。最後に「市町村の生涯学習・社会教育主管課の課長や職員に事業を説明する」という設定で発表を行った。



受講者の声

- ・各グループの発表後の講評では、共生社会の実現に関して、多くのアドバイスをいただき、大変参考になった。
- ・講師の先生方は、知識量、指導力ともに圧巻で、先生方のようになれるよう、自分もさらに学び、実践していきたい。

特別講演 「今後の社会教育主事に期待すること～誰一人として取り残さない社会教育の実現に向けて～」

九州共立大学 名誉教授 古市 勝也

現代社会における社会教育・社会教育主事の必要性については、データを示しつつ、法令・SDGsの観点等を踏まえ、地域活性化・地域課題の解決に必要な要素について説明があった。また、令和の社会教育主事の方向性については、社会教育主事の原点に立ち返り、受講者に対して「地域の人を活かす」、「地域の宝を活かす」等、期待を込めたエールをいただいた。



受講者の声

- ・古市先生の経験談をまじえたお話から、社会教育主事が大事にしなければならないことを具体的に学ぶことができた。
- ・行政の立場で社会教育にかかわるすべての人が自身を振り返り、また前に進むことができるような大変元気の出る内容だった。